

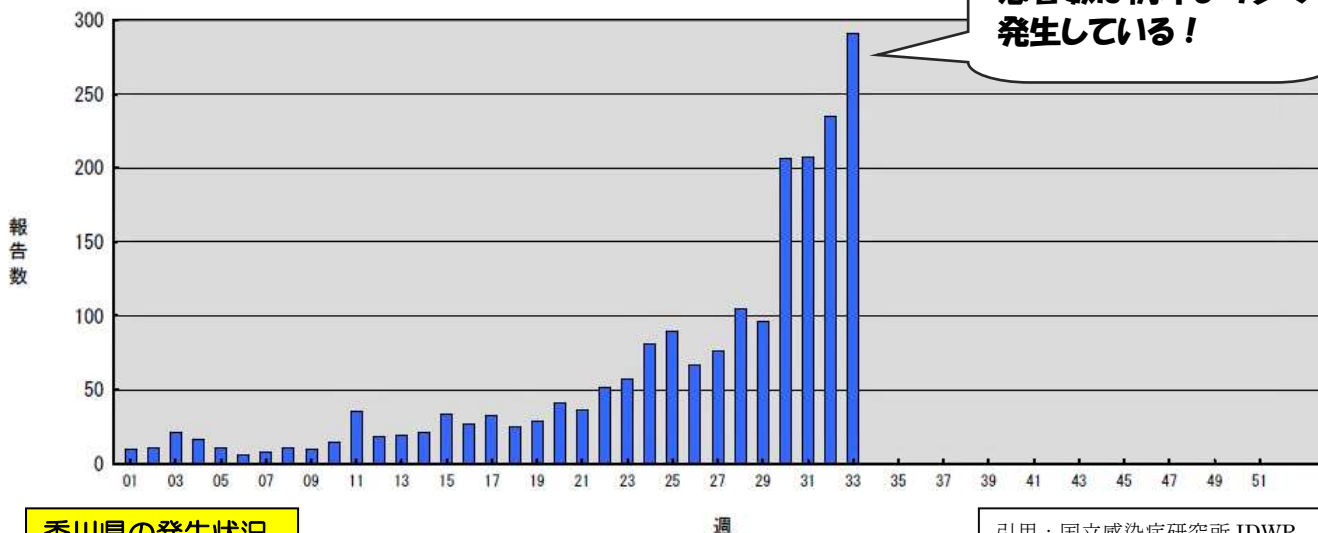
腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう！

大腸菌は健康な人の大腸などにおいて、通常は下痢等の症状をおこすことはありません。しかし、なかには下痢や腹痛などをおこすものがあり、特に強い病原性を示し、腸管内でペロ毒素という出血性下痢の原因となる毒素を産生するものを「腸管出血性大腸菌」と呼びます。(例：O157等)平成29年8月の感染症発生動向調査における腸管出血性大腸菌 O157 の患者数(全国)は例年より多く、感染しないように注意が必要です！！

全国の発生状況

週別腸管出血性大腸菌感染症報告数 2017年第1~33週 (n=1,995) (2017年08月23日現在)
Weekly EHEC infection cases from week 1 to week 33 in 2017(based on diagnosed weeks as of August 23, 2017)

2017年 第1-52週

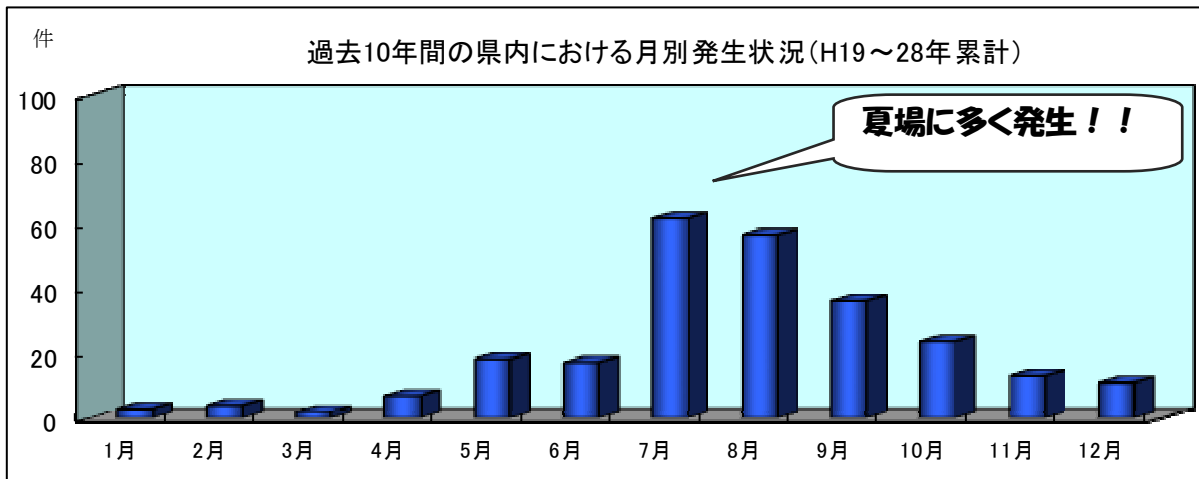


香川県の発生状況

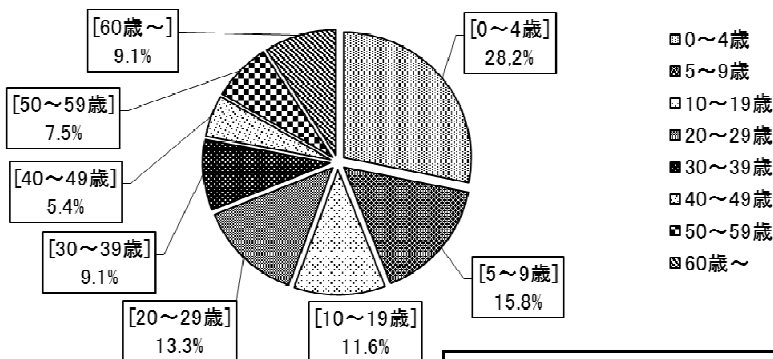
引用：国立感染症研究所 IDWR

●平成29年月別発生状況 (平成29年8月27日時点)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
0	0	0	1	1	6	3	3				



香川県年齢別発生状況(平成19年~平成28年累計)



患者発生届の多くは10歳未満!!
子どもや高齢者は重症化しやすいので注意が必要!!



出典：香川県感染症発生動向調査(香川県薬務感染症対策課)

腸管出血性大腸菌の特徴

①**感染力が非常に強い** ②長い潜伏期間（3～8日） ③**強力なペロ毒素**を産生し、腸の粘膜を破壊したり、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症など、**致命的な合併症を引き起こす危険性**があります。

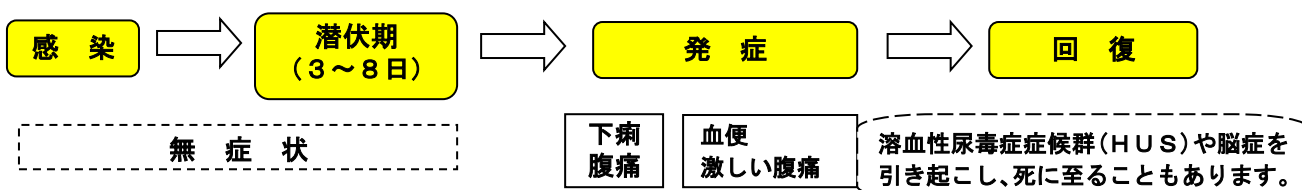
下痢や腹痛などの症状があれば**早めに医療機関を受診**しましょう。

腸管の運動を抑える働きの下痢止めや痛み止めの薬の中には、ペロ毒素を体外に排出されにくくするものがありますので、**自分の判断で薬を服用せずに、医師の診察を受け**ましょう。

おもな感染源と感染経路

・国内で原因食品と特定あるいは推定されたものには、生肉、井戸水、生野菜などがあり、これらを介して、口から感染します。

おもな症状と経過



★感染を防ぐには★

菌を につけない！ 増やさない！ 殺菌！！

- ・食品は新鮮なものを購入し、冷蔵や冷凍が必要なものはすぐに保冷しましょう。
- ・**お肉は生で食べない**ようにしましょう。
- ・腸管出血性大腸菌は熱に弱いので、中心部まで**十分に加熱**（75℃以上で1分以上）して、しっかり火を通しましょう！
- ・**せっけんでよく手を洗い**、まな板・包丁などは熱湯や塩素系漂白剤で消毒しましょう！

★患者の便を介しても感染するので、介護者はせっけんで十分手を洗い、汚染した衣類などは塩素系漂白剤に浸してから洗濯しましょう。

